

令和元年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」

審査講評

全国農協青年組織協議会が主催する令和元年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」には、全国30都道府県から67作品（看板部門59点、アート部門8点）の応募があり、令和2年1月24日（金）に東京・大手町のJAビルで審査委員会を開催しました。作品募集テーマは昨年同様「農業のある地域づくりの大切さに関する地域住民へのアピール」とし、インパクト（設置場所選択を含む）、内容、デザインなどの審査基準に基づき審査を行いました。

なお審査は、全国消費者団体連絡会、JA全農、JA共済連、農林中央金庫、日本農業新聞、家の光協会、農協観光、JA全中の各団体からお集まりいただいた広報担当の職員など8名の委員で行い、審査委員長は互選により、全国各地の青年部活動を記事として取り上げていただいている日本農業新聞の広報局 事業開発部長である小菅 真氏が選ばれました。

審査の結果、最優秀賞には「福井県 JAテラル越前村岡（むろこ）青壮年部」の作品が選ばれました。

恐竜の化石が多く発掘されるご当地の名物を生かし、恐竜と青年部盟友が大きなおにぎりをほおぼる姿を「たのしさ おいしさ 恐竜級」と表現し、米どころ福井を織り交ぜながら本コンクールのテーマである「農業のある地域づくり」を上手にアピールしていました。見た目のインパクトに加え様々な工夫を凝らした作品が多かった中、本作品が最優秀賞に選ばれました。

アート部門賞には「北海道 JAびばい青年部」の作品が選ばれました。

北海道らしい雪の壁を題材に大人も子供もみんな並んだ作品は、アート感だけでなく地域の一体感も表現されており、相撲取りが山盛りのご飯を食べているイラストで農業とのつながりを効果的にアピールしている作品として高く評価されました。

(各特別賞について)

○ **全国消費者団体連絡会賞「徳島県 徳島市農業協同組合 国府支所青壮年部」**

生産者を繊細なタッチで描き、藍色と白のコントラストを使うことで強烈なインパクトを与えています。見た目がきれいで斬新であったことに加え、収穫の様子を「阿波を獲り（おどり）」と表現、あえて文字を少し看板からはみ出すなど阿波踊りの躍動感をうまく地元農業に結び付けた作品となっていることが評価されました。

○ **J A全農賞「福島県 夢みなみ農業協同組合青年連盟三神支部」**

日常にある穏やかな親子の様子に「みんなが笑顔になる種をまくんだよ」と会話を挿し込み、日々の暮らしと営農が上手に表現された作品として評価されました。

○ **J A共済連賞「新潟県 J A越後ながおか青年部 黒条支部」**

青年部活動で行った小学校教育田の田植え活動をデザインとしており、地域に定着した行事を題材に、地域と農業のつながりをこれからも大切にしていきたいとの青年部盟友の思いが率直に伝わる作品として評価されました。

○ **農林中央金庫賞「山口県 山口県農協山口青壮年部」**

若い芽の真ん中に「農」の漢字を配置し、農の漢字をじっとみていると「せいねん」と読めるようになっており、工夫を凝らしているだけでなく若い世代の農業に対する決意を強く感じさせる作品として評価されました。

○ **日本農業新聞賞「奈良県 J Aならけん青壮年部 北葛支部」**

黒色を背景に赤い文字で「地産地消」と表現し、遠くからでも見つけることのできる抜群の視認性・インパクトと、野菜を上手にちりばめたデザイン性が評価されました。

○ **地上賞「兵庫県 J A兵庫南 青壮年部」**

パズルというモチーフを使い兵庫県の農業の多様性を表現するとともに、ピースの中身を見ると消費者の暮らしが描かれており、地域と農業のつながりをまとりよく表現した作品として評価されました。

○ 農協観光賞「福井県 J A テラル越前上庄青壮年部」

GI マークとともに「上庄さといも」と大きく書き込み、ここが産地であることを強くアピールできていることと、子供たちがさといもの収穫に携わる様子は「農業のある地域づくり」を上手に表現した作品として評価されました。

○ J A 全中賞「長崎県 J A 壱岐市青年部 勝本支部」

ラグビー日本代表のユニフォームを連想させる背景と「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」とのフレーズを使い、協同組合の理念をタイムリーな話題と絡め、地元農産物を効果的に PR、フレーズからは地域とのつながりをしっかり押さえていることが評価されました。

(総評)

本年度についてもコンクールに寄せられた作品はどれもレベルが高く、1枚の看板にどれだけ雄弁に、わかりやすくメッセージを語らせるか、青年部盟友の熱意が伝わる力作ぞろいでした。

見た目にインパクトがあり視認性が高いことに加え、デザインにも様々な工夫を凝らしているなど、ぱっと見だけでなく、見る者を引き込むような発想力豊かで魅力的な作品も多く、選考に苦勞するコンクールとなりました。

アート部門についても、立体感を出せることもあり固定観念にとらわれることなく、創意工夫あふれる斬新な作品が多く寄せられました。農業が持つ自由さや多様性といった魅力を存分に表現しながら、地域とのつながりを大切にする作品作りに今後ともチャレンジしていただければと思います。

審査では、看板部門・アート部門にかかわらず、テーマである「農業のある地域づくり」を実現するために、地域住民に「どうメッセージを伝えているか」という点を最大の評価ポイントとしています。

デザインのインパクトや見やすさ、地域性といった作品単体の出来栄だけでなく、設置場所が効果的かも是非考慮していただければと思います。

看板製作をきっかけに、地域住民の食と農に対する理解が深まり、それぞれの地域で、住民と一体となった取り組みがなされることを期待しています。

また、盟友と協力して看板制作に取り組むことで、盟友同士の絆が深まり、各地

の青年部の活動がさらに活発化していくことを期待しております。

今後も本コンクールの開催が各地盟友の看板制作の励みになること、そして青年部の看板・アート作品が全国に広がり、日本農業・地域社会の情報発信源となることを確信しております。

【審査委員】（敬称略）

小 菅 真<審査委員長>（日本農業新聞・広報局 事業開発部長）

廣 田 浩 子（全国消費者団体連絡会・政策スタッフ）

沢 登 幸 徳（全国農業協同組合連合会・広報調査部 次長）

上 野 温 司（全国共済農業協同組合連合会・調査広報部 部長）

岡 元 純 児（農林中央金庫・広報企画担当部長）

魚 谷 昌 宏（家の光協会・編集本部地上編集部 編集長）

田 中 義 隆（農協観光・役員担当室長）

金 原 由 孟（全国農業協同組合中央会・広報部 広報課長）

以 上

令和元年度

「JA全青協オリジナルワークウェアポスターコンクール」

審査講評

審査の結果、最優秀賞には「島根県 JAしまねくにびき青年連盟」の作品が選ばれました。この作品は、ワークウェアを着こなした青年部盟友が、収穫した作物を誇らしげに掲げて「俺たち作る！」とし、笑顔のかわいい子供たちが「ボクたち食べる！」という言葉を重ね、農業のカッコよさに加えて、作る人と食べる人のつながりが効果的に表現されている構図となっていることが高く評価され、最優秀賞に相応しい作品として支持されました。

優秀賞には「北海道 北海道農協青年部協議会」の作品が選ばれました。この作品は、ワークウェアを着た若い盟友の笑顔とさわやかさは多くの審査委員から支持され、カッコいい農業のPRには申し分なく完成度の高い作品となっていることが評価されました。

(総評)

今回のコンクールは4回目の開催となりましたが、応募作品はどれも完成度が高く、若者が誇りを持って未来志向で農業と向き合っていることが伝わってくる内容のものでした。

「カッコよさ」はワークウェアの着こなしや背景となる風景・特産品など見栄えも大切ですが、何より盟友の表情からにじみ出る自信、内面的な「カッコよさ」も、ポスターを見る人の共感を誘うものと考えます。

農業の魅力をPRし、日本農業のサポーターや農業関係人口、ひいては新規の就農者を増やしていくために幅広い消費者に働きかける取り組みが大事です。

そのために、ストレートに視覚に訴えるポスターは非常に有効と考えられますので、ぜひ皆さんの組織でもポスター作りに取り組んでみてください。

以上